

2009年11月30日

遠隔操作で超音波診断 早大が検査装置開発

早稲田大学の菅野重樹教授と岩田浩康准教授らは、遠隔操作で患者の腹部を調べられる超音波検査装置を開発した。患者の腹部に装着し、超音波のセンサーを遠隔操作で動かして診断する。交通事故などで病院に搬送中の患者を救急車内で診断するような利用の仕方を想定している。医療機器メーカーと協力して5年後をメドに実用化を目指す。

開発した検査装置は縦横の長さが20センチメートル、高さが12センチメートルの箱形で、重さが2.2キログラム。患者はあおむけに寝て、腹部にベルトで固定する。簡単に装着できるので、救急車内や妊産婦の自宅など、医師がいないところでの緊急時の検査に向いているという。装着は3分で可能。

=日経産業新聞=